

【プレスリリース】

帯広の未来をひらく、新たな挑戦へ

柏尾哲哉(かしお・てつや)、帯広市長選挙への出馬を決意

2025年12月10日

帯広未来構想準備室(本リリースに関するお問い合わせ窓口)

帯広市出身で、観光・まちづくり事業を通して地域再生に取り組んできた

十勝シティデザイン株式会社創業者、帯広食べ歩きまち株式会社代表取締役の

柏尾哲哉(かしお・てつや)は、**2026年4月**の帯広市長選挙に出馬することを決意しました。

■ 出馬の理由 ― 帯広は、もっと良くなる。まだ本番はこれから。

帯広そして十勝には、食と農、自然、文化、そして多様な人々の営みといった、世界に誇れる価値があります。

しかし、その大きな潜在力を、私たちはまだ活かしきれていません。

人口減少や中心市街地の空洞化、産業構造の転換など、今まちが直面している課題は、

その解決を通じて帯広がさらに飛躍するための大きなチャンスでもあります。

私は地元で生まれ、京都で学び、東京で法務・金融・国際ビジネスに携わる一方で、

40歳を機に再び帯広に深く関わり、観光や中心市街地の再生に取り組んできました。

その歩みの中で、

「今こそ責任を持って行動し、帯広の未来を前に進める時だ」？

との確信に至りました。

■ 実現したい未来 ― 外にひらき、内にやさしい、新しい帯広モデル

私が目指す帯広の未来には、二つの軸があります。

① 地域資源を活かして全国・世界で稼ぎ、市民の所得と生活水準を高めること。

農業と食を基盤に、観光、文化、ものづくりなど、多様な価値を全国・世界へ届け、地域の成長を加速させる「十勝の外貨獲得モデル」を確立します。

② 中心市街地の再生と、郊外エリアを含む「まちのえき」(※誰もが立ち寄れる暮らしの拠点)の整備によって、日々の安心と支え合いを取り戻すこと

誰もが徒歩でアクセスできる拠点をつくり、

高齢者も子育て世代も若者も、お互いを自然に助け合える暮らしの構造を育てます。

外へ向かえば力強く、内に向かえばあたたかく。

この両輪がそろってはじめて、市民一人ひとりが変化を実感し、

未来を明るく展望できる帯広が実現すると考えています。

新しい構想で課題を乗り越えていけば、帯広は東北北海道の中核都市としての役割を確固なものとし、

日本の地域創生を牽引するトップランナーになる力を持っています。

その未来を、ここから共につくっていきます。

■ メインスローガン

本番はこれから、帯広の未来へ！

これまで地域で積み重ねられてきた多くの取組みを基盤に、

新しい飛躍の時代をともにひらく帯広へ。その決意を、この言葉に込めました。

■ 略歴(抄)

1966年帯広市生まれ。帯広小学校、帯広第五中学校、帯広柏葉高校卒業。

40歳を機に、地元帯広での活動を本格的に開始。観光と中心市街地再生の実務に携わり、地域の課題解決と価値創出に取り組む。

2014年に十勝シティデザイン株式会社を創業、十勝短編映画「my little guidebook」(2015年)、「ホテルヌプカ」(2016年)、「旅のはじまりのビール」(2016年)、馬車BARツアー(2019年)など、帯広・十勝の魅力を発信する取組みを次々に展開。

2021年、帯広市・第一生命との連携協定に基づき「NUPKA Hanare」を開業。

2025年、地元企業9社の出資を受け「帯広食べ歩きまち株式会社」を創業し、代表取締役役に就任。

中心市街地を舞台に、新たな観光・交流・地域経済モデルの実装を進めている。

京都大学法学部卒業後、山一証券勤務を経て、1996年より弁護士として東京を拠点に活動。金融・国際ビジネス・法務の分野で経験を積み、日本と世界をつなぐ実務に携わる。

とまち観光大使(2015年～)。

■ 12月15日に政策の骨子を発表する記者会見を開催

主要政策の方向性については、

12月15日に開催する記者会見にて発表いたします。

【お問い合わせ】

帯広未来構想準備室(事務局)

E-mail: korekara.obihiro@gmail.com

Web: <https://korekara-obihiro.studio.site>